

安曇野市農業農村振興計画推進委員会(第4回)会議概要

|   |                  |   |
|---|------------------|---|
| 1 | 審議会名             | 令和3年度 第4回安曇野市農業農村振興計画推進委員会  |
| 2 | 日                | 時 令和3年10月1日 午後1時30分から午後3時まで   |
| 3 | 会                | 場 安曇野市役所堀金支所 3階大会議室1  |
| 4 | 出席者(委員)          | 中島完二委員長、岡村紀子副委員長、細田直稔委員、福嶋子真委員、東稔丈委員、久保田敏彦委員、中田平男委員、津村孝夫委員、丸山昌則委員、小原太郎委員、田中浩二委員、召田洋一委員、小林みずき委員、岡村公夫委員、古幡栄一委員(15人/23人中)              |
| 5 | 市側出席者            | 赤澤農林部長、山崎農政課長、小林農政課長補佐兼農業政策係長、布山生産振興担当係長、中澤生産振興担当係長、中村農村振興担当係長、小林農村振興担当係長、農業政策係高野副主幹、農業政策係鈴木主査、水谷市農業再生協議会事務局次長、佐藤耕地林務課長、高木農業委員会事務局長 |
| 6 | その他出席者(計画策定コンサル) | 特定非営利活動法人 SCOP 跡部嵩幸研究員  |
| 7 | 公開・非公開の別         | 公開  |
| 8 | 傍聴人              | 0人 記者 0人  |
| 9 | 会議概要作成年月日        | 令和3年10月13日  |

協 議 事 項 等

|   |   |
|---|---|
| 1 | 会議の概要   |
|   | (1) 開会(岡村副委員長)  |
|   | (2) あいさつ(中島委員長)<br>前回欠席者への意見照会結果の報告(事務局)  |
|   | (3) 協議事項<br>ア 施策体系・施策内容・重点プロジェクトの変更点について<br>イ 進捗管理方法について  |
|   | (4) その他   |
|   | (5) 閉会(岡村副委員長)  |
| 2 | 協議事項  |
|   | (1) 施策体系・施策内容・重点プロジェクトの変更点について  |
|   | 【主な意見・質問等】  |
|   | 委 員：新規就農者数をいかに増やしていくか、数値目標の設定は大事なポイントと認識している。その中で、農業法人での就業者の実態把握はどのようになっているか。例えば、農業法人に勤めているサラリーマンは分母に含まれているのか。1農業法人を「1」としているのか。家族経営の場合は、どうなのか。        |
|   | 事務局：目標値についての考え方、設定の仕方としては、現行計画の平成29年から令和2年までの過去5年の経過を採った中で、実績を見つつ現行を考慮した中で設定していく。新規就農者数のカウント方法は、経営体としてのカウントであり、就業者数のカウントではない。もしくは親元に入った場合などは1カウントとなる。 |
|   | 委 員：新規就農者数＝社長の数との事だが、例えば、農業法人が雇用しても数値に反映されないようでは実態が十分に把握できないのではないかと。統計調査だといつまでたっても高齢化という課題があがるが、実際はサラリーマンとして就農する方も多いため、そのような実態を把握する方法も検討して            |

いくべきではないか。

事務局：最終回に向けて検討する。

「人材獲得・育成支援」の施策の中の目標については、法人アンケートを実施してデータを取得することを想定している。従業員数を把握する設問を入れるなども含め検討する。

## (2) 進捗管理方法について

### 【主な意見・質問等】

委員：資料全体について発言したい。

5年後の耕作面積や耕作放棄地の予測はできないものかと強く感じる。また、新規就農者数の目標も、関連付けて設定できないものか。

委員：5年後の耕作放棄地はそれほど増加しないと予測される。理由としては、条件不利の農地については農地から外すということがあること、また優良農地については宅地化を検討する方も多くいらっしゃるということがある。ヒアリングの結果からは、優良農地が、住宅地・産業用地等に転用されていく懸念がある。

委員：個人的な所感では、耕作放棄地が増えるため、新規就農者の受け入れが必要と考えていたが、今のお話では耕作放棄地は増えないとのこと。それであれば新規就農者を増やす必要性があるのか。

委員：現在、高齢者が従事している農地については、次世代の担い手＝新規就農者が必要になると考えている。そういう意味合いで、耕作放棄地を増やさないことは重要。

委員：引き継ぎ手がない＝耕作放棄地が増えると考えている。そのため、やはり人数が必要。その思いを共有したい。

事務局：アンケート結果から、経営体数は減少しているものの、法人や新規就農者などがカバーしているため、これまでは耕作放棄地の発生が抑えられてきたという解釈をしている。ただし、今後、中山間地では耕作放棄地が発生する懸念はある。

委員：どこに力を入れていくのか、細かく見ないと見えてこない。人数だけではなく、面積から見る指標があれば全体が見えやすいのでは。

2-1-2「農業者の確保・育成」の施策中④多様な人材の確保育成について、市の黒丸のところには、農業委員が入っているという認識で良いのか。

事務局：農業委員会については「その他」に表記している。農業委員会は、相談窓口としての機能も想定されるため、主体への追加を事務局で検討したい。

委員：新規就農する際には、農業農村支援センターに大変お世話になった。2-1-2「農業者の確保・育成」の施策中①新規就農の支援窓口の運営については、県の管轄である農業農村支援センターも黒丸がいるのでは。

事務局：県については、現在確認中であるため、県の回答を反映していく。

先ほどの耕作面積の予測については、農業センサスを使った推計等の事例があるものの、精度は粗いものとなっている。また、担い手の数との紐づけについても、家族経営から法人経営へという動きがあり、単純なモデルでは示せず、データも不足している。委員の考えには共感するものの、現状は技術的に難しい状況となっている。

委員：計画のPDCAをまわす中で、担い手の属性別にどれくらいの耕作面積をカバーし

ているのかがわかると、次の一手が打ちやすくなる。そのような意味で、実態を把握できる工夫をしてほしい。

委員：耕作放棄地について、発生が抑制されているとのことだが、個人的には瀬戸際にあると考えている。定年が65歳に延びている中、定年後に農業に従事する人は少なくなるのではないかと危惧している。10年後にも担い手として活躍できる世代を増やさなければならぬと感じている。農地の流動性のバロメーターとしては、1-2-1人・農地プランの推進「農地中間管理機構の借受面積」の目標設定が重要だと思う。

委員：2-1-3「地域リーダー等の確保・育成」にある①地域リーダーの育成・支援はいいと思う。地域リーダーがいることは心強い。里親にも相談はするが、里親のエリア外の相談はしにくい。地域の農業の担い手確保の目標設定をしながら、新規就農者等の定着を支援できるとよい。その際、多様な農業のあり方を認め、地域の中でうまくいくようフォローしていくことも重要。

委員：耕作放棄地と新規就農者を結び付けて考えるのは良くない。現在、耕作されている農地をベースに議論すべきと考えている。条件不利な耕作放棄地を新規就農者にあてれば済むという話ではなく、優良農地をどのように地域全体で活用していくかという視点が重要である。

委員：2-5-1「持続可能な循環型社会への転換の推進」にある有機農業について、JAとしても重要と認識している。有機農業を進めるためには、有機資源の供給が大きな課題。支援策の検討をお願いしたい。

委員：守るの施策2-5「環境問題への対応」について、果樹栽培は気候変動により品質や収穫量の低下を感じている。これは、作り手にとっても買い手にとっても痛手だと思う。年齢的な問題もあり、今後良いものが作れないのであれば畑を手放すといった声もある。中長期的な課題として、気候変動に対する品種や作物の研究に取り組むことも重要なのではないかと。

被害の頻度が、10年に1回だったものが、2～3年に1回程度に増えている。農家としては、品目自体を変えるという決断も迫られている。

事務局：凍霜害、コロナ禍、台風・豪雨等、近年被害が多様化している。このような状況を踏まえて市としては、収入保険による対応を検討している。また、凍霜害については、ファンの設置補助等の施策も考えられるが、単発では効果が得にくいいため総合的な視点での検討が必要となる。

委員：2-4-2「生産基盤の維持・更新」の②農業用施設の維持・更新について、施設（ライスセンター等）、農業機械（乾燥機、糶摺り機等）の維持・更新は大きな負担となる。一方で、維持・更新しなければ良いものはつukれないし、農地も守れない。そのような中で、最新の機械を導入できるような支援を検討いただけないか。また、JAも取り組むので、JAの欄にも黒丸を付けてもらいたい。

2-5-2「農と暮らしの調和の実現」について、タイトルと内容が一致していないように感じる。

事務局：2-4-2「生産基盤の維持・更新」については、黒丸について反映、内容について検討する。2-5-2「農と暮らしの調和の実現」については、施策名を再検討する。JAとの連携については、改めて確認・調整していく。

事務局：今後の日程について

次回は10月28日（木）13：30から、会場は本庁舎4階大会議室にて行う。

以上